

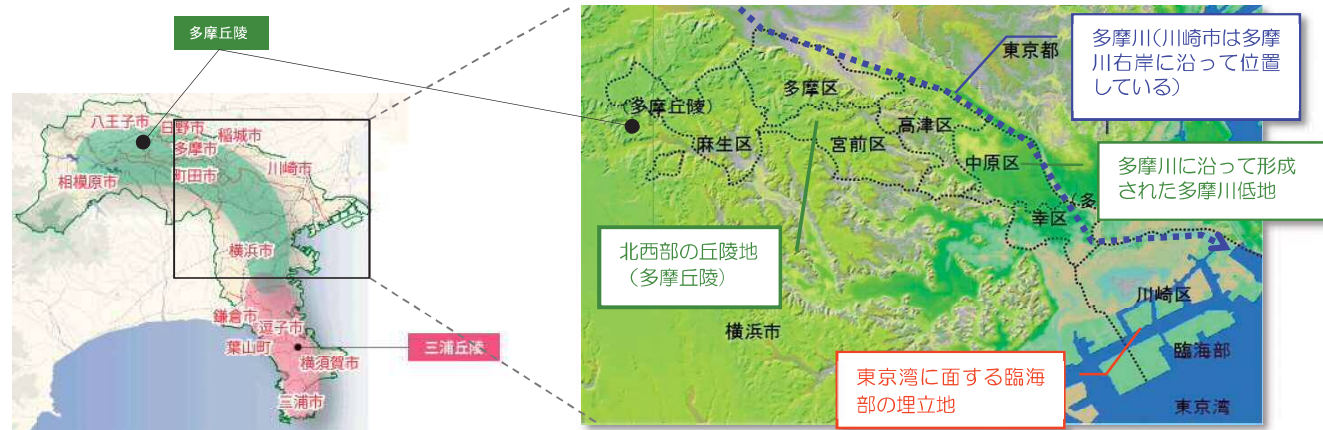
# 川崎市の自然環境

## 川崎市の地形的な特徴

川崎市は、多摩川に沿って細長い市域を有しており、北西部の丘陵地は八王子から三浦半島まで続く多摩・三浦丘陵の一部となっています。河岸段丘となる多摩川崖線と多摩川の間は平坦な多摩川低地となり、臨海部には埋立地が広がっています。さらには、多摩川のほか、河川や水路等も市域全体に分布しています。

臨海部のほとんどは工業用地となっていますが、運河や多摩川河口の広大な水域は、工業地帯に再生された緑が重要な自然環境の資源となっています。

多摩川低地には住宅地や工業用地が、北西部の丘陵地帯には住宅地が広く分布する一方で、黒川等農業振興地域における農地や生田緑地等の樹林地が、まとまって存在しています。



(出典) 多摩・三浦丘陵トレイル (多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議資料に加筆)

## 川崎市で見られる多様な生き物たち

市域に存在している農地や樹林地、河川等のほか、住宅地や工業用地に再生された緑や水辺、公園等の身近な自然にも多くの生き物が生息・生育しており、これまでに数千種に及ぶ様々な生き物が市域で確認されています。



「かわさき生き物マップ」では、市域で見られる生き物の情報の募集・発信をしています。

かわさき生き物マップ

検索

# 6つの「生態系エリア」

「生物多様性かわさき戦略」では、川崎市の概況と地域特性を踏まえ、市域の自然的環境や土地利用の違いの分布等から、市域を6つの「生態系エリア」に区分しています。

## ①丘陵地と農地と樹林の生態系エリア



## ②丘陵地の樹林の分散する生態系エリア



## ③低地の農地の分散する生態系エリア



(出典) 川崎市都市計画基礎調査 (平成 17 年度調査結果報告書) に加筆

## ④低地の市街地の生態系エリア



## ⑤多摩川の生態系エリア



## ⑥臨海部の生態系エリア



## 各生態系エリアの特徴

①	生き物の生息・生育の拠点となる農地や樹林がまとまって分布する地域が多く含まれ、河川等がそれらをつないでいる。農地や樹林、水辺等を生息・生育環境とする多様な生き物が生息し、緑地保全活動が活発に行われている。
②	生き物の生息・生育の拠点となる樹林がまとまって分布する地域が含まれ、河川や多摩川崖線の緑等がそれらをつないでいる。樹林や水辺等を生息・生育環境とする多様な生き物が生息し、緑地保全活動が活発に行われている。
③	生き物の生息・生育の拠点となる農地や公園等が点在し、ニヶ領用水や河川、街路樹等がそれらをつないでいる。農地や住宅地等を生息・生育環境とする生き物が生息し、生物多様性に関する保全活動が行われている。
④	自然的環境の分布は少なく、公園等が生き物の生息・生育環境となっており、街路樹等がそれらをつないでいる。地域緑化に関する活動が活発であり、また、公園や住宅地等を生息・生育環境とする限られた種類の生き物が生息する。
⑤	多摩川河川区域の全体が生き物の生息・生育環境となっており、上下流や隣接する堤内地等をつないでいる。多摩川の河川区域内のさまざまな環境を生息・生育環境とする多様な生き物が生息し、保全活動が活発に行われている。
⑥	自然的環境の分布は少ないが、海域に面しており、事業所の緑地等が存在している。